

通信型ドライブレコーダー CDR450A 専用リアカメラ リアカメラ移設キット

取付説明書

お客さまへのお願い

- リアカメラの台座の交換を行う前に、必ずこの説明書をよくお読みのうえ、正しく作業を行ってください。
- 指定以外の取付方法や指定以外の部品を使用すると、事故やケガの原因となる場合があります。
- 本機の取り付けには、専門技術と経験が必要です。株式会社デンソーテン「お客様相談窓口」へのご相談をおすすめします。
- リアカメラを使用すると、端末の車内カメラが使用できなくなります。

ー販売店様へー

- ドライブレコーダー端末が装着され、チュートリアル設定が完了していることをご確認ください。

● 構成部品

作業前に構成部品が揃っているか、汚れや傷がないか確認してください。

● 本体関係

① 台座  ×1	
--	--

● 取付用部品関係

② 配線止めクリップ  ×3	③ 六角レンチ  ×1
--	---

※配線固定部材が足りない場合、市販されている配線固定テープの準備をお願いいたします。

● 作業の進め方

- 1) 構成部品の確認。 (☞ 構成部品)
- 2) リアカメラを取り外す。 (☞ リアカメラを取り外す (交換) 方法について)
- 3) リアカメラの台座を交換する。 (☞ 台座の交換方法について)
- 4) リアカメラを取り付ける。 (☞ リアカメラの取り付けについて)

● 安全に正しくお使いいただくために

お客様や他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の表示をしています。その表示と内容をよく理解してから本文をお読みください。

●本機取り付けのために必ず守っていただきたいこと、知っておくと便利なことを下記の表示で記載しています。

 **アドバイス** この表示は、本機の故障や破損を防ぐために守っていただきたいこと、知っておくと便利なこと、知っておいていただきたい内容を示しています。

● リアカメラを取り外す(交換)方法について

リアカメラを取り外す方法は P.5 「●リアカメラを取り外す (交換) 方法について」をご確認ください。

● 台座の交換方法について

1 リアカメラから台座を取り外す。

① 六角レンチを使用して角度調整ねじを緩める。

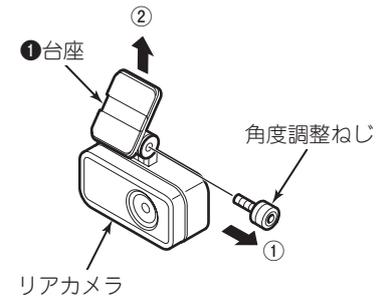
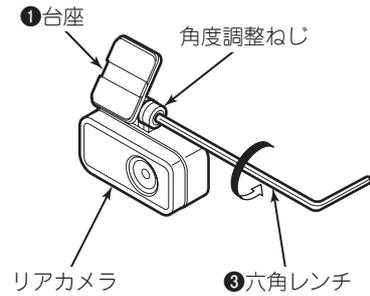
📷アドバイス

- 角度調整ねじを緩める際、レンズを手で触れないように注意してください。

② 角度調整ねじを取り外し、リアカメラから台座を取り外す。

📷アドバイス

- 台座を取り外す際、レンズを手で触れないように注意してください。



2 リアカメラに台座を組み付ける。

① リアカメラに台座を組み付け、角度調整ねじを挿し込む。

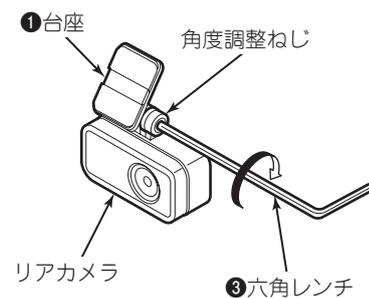
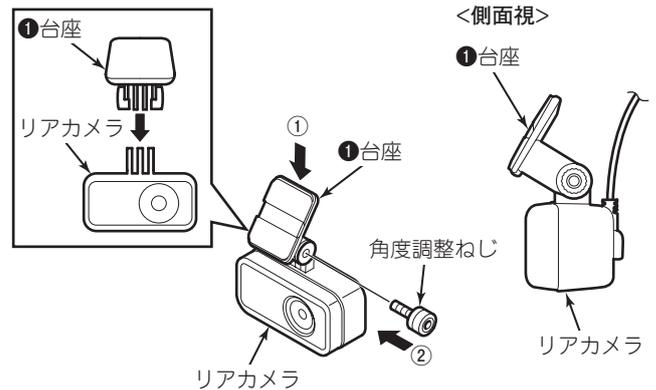
📷アドバイス

- リアカメラに台座を組み付ける際、レンズを手で触れないように注意してください。
- 組み付けの際、台座の向きに注意してください。組み付け状態は、<側面視>を参考に確認してください。

② 六角レンチで角度調整ねじを締め付け、台座を固定する。

📷アドバイス

- 台座を固定する際、レンズを手で触れないように注意してください。



● リアカメラの取り付けについて

リアカメラの取り付け方法はP.5「●リアカメラの取り付けについて」をご確認ください。

通信型ドライブレコーダー CDR450A 専用リアカメラ

取付説明書

お客さまへのお願い

- 取り付けおよび接続を行う前に、必ずこの説明書をよくお読みの上、正しく作業を行ってください。
- 指定以外の取付方法や指定以外の部品を使用すると、事故やケガの原因となる場合があります。
- 本機の取り付けには、専門技術と経験が必要です。株式会社デンソーテン「お客様相談窓口」へのご相談をおすすめします。
- 「取付説明書」をお読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。
- リアカメラを使用すると、端末の車内カメラが使用できなくなります。

販売店様へ

- ドライブレコーダー端末が装着され、チュートリアル設定が完了していることをご確認ください。
- 取り付け、接続作業が完了しましたら、この取付説明書をお客様へお渡しください。

取付概要図



構成部品

作業前に構成部品が揃っているか、汚れや傷がないか確認してください。

● 本体関係

① リアカメラ	×1
---------	----

● 取付用品関係

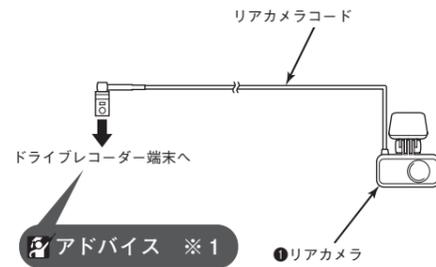
② 配線止めクリップ	×3	③ アルコールパッド	×1
④ 六角レンチ	×1		

※ その他の構成部品 (取付説明書、保証書などの資料類)
※ 配線固定部材が足りない場合、市販されている配線固定テープの準備をお願いいたします。

作業の進め方

- 1) 構成部品の確認 (🔍 構成部品)
- 2) 接続を確認する (🔌 接続のしかた)
- 3) リアカメラを取り付ける (👁️ リアカメラの視野角について)
(👁️ リアカメラの取付位置について)
(👁️ リアカメラの角度調整について)

接続のしかた



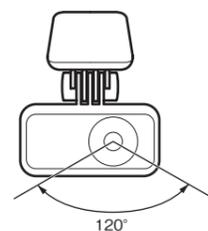
👁️ **アドバイス ※1**

👁️ アドバイス

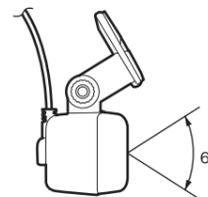
※1 端末に接続してください。

リアカメラの視野角について

<正面視>



<側面視>



リアカメラの取付位置について

<車両上方から見た図>

図A

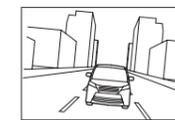
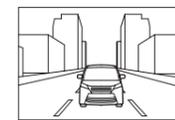
図B

■ 車両とリアカメラを平行に取り付けた場合 (リアカメラのレンズ面が車両の真後ろに向くように取り付けた場合)



<リアカメラ画像>

(イメージ)



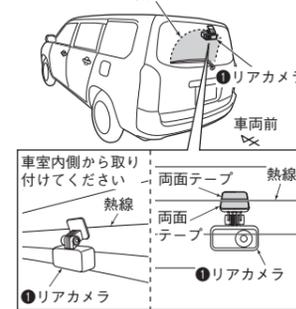
👁️ アドバイス

● 図Aのように車両と平行になるように取り付けてください。図Bのように車両に対して傾けて取り付けると画像が傾きます。

👁️ アドバイス

- リアワイパーが装着されている場合、リアワイパーの拭き取り範囲内に取り付けてください。ガラスの汚れ、雨天時の水滴等により、映像が見づらくなる恐れがあります。
- 熱線に両面テープが重ならないように貼り付けてください。
- 熱線が画像に映り込む場合があります。
- 視界を妨げないように取付を行ってください。
- リアカメラは車室内側から取り付けてください。

ワイパーの拭き取り範囲



安全に正しくお使いいただくために

お客様や他人への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の表示をしています。その表示と内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠️ 警告

この表示を無視して、誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠️ 注意

この表示を無視して、誤った取扱をすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容を示しています。

❗ : しなければならないことを表しています。

⚠️ : 注意をしなければならないことを表しています。

🚫 : してはいけないことを表しています。

- 本機取り付けのために必ず守っていただきたいこと、知っておくと便利なことを下記の表示で記載しています。

👁️ アドバイス

この表示は、本機の故障や破損を防ぐために守っていただきたいこと、知っておくと便利なこと、知っておいていただきたい内容を示しています。

⚠️ 警告

- ⚠️ 本機はドライブレコーダー専用リアカメラです。
- 🚫 本機を次のような場所には取り付けないでください。
本機を、運転操作を妨げる場所など運転に支障をきたす場所、同乗者に危険を及ぼす場所などには絶対に取り付けしないでください。交通事故や怪我の原因となります。
- ❗ コード類は、運転操作の妨げとならないよう、テープ等でまとめて固定してください。
ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどに巻きつくと事故の原因となり危険です。
- 🚫 電源コードの被覆を切って、他の機器の電源を取ることは絶対にしないでください。
電源コードの電流容量がオーバーし、火災や感電、故障の原因となります。
- ❗ 取り付けと配線が終わったら、ブレーキやライト、ホーン、ハザード、ウィンカーなどの電装品が元通り、正常に動作することを確かめてください。
正常に動作しない状態で使用すると火災や感電、交通事故の原因となります。
- 🚫 リアカメラコードに傷をつけないでください。
傷の部分からリアカメラ内部に湿気や水分が浸入し火災や感電、故障の原因となる場合があります。

⚠️ 警告

- 🚫 本機を分解したり、改造しないでください。
事故、火災、感電の原因となります。
- ❗ 必ず付属の部品を指定通り使用してください。
指定以外の部品を使用すると、機器内部の部品を損傷したり、しっかりと固定できず外れることがあります。
- ❗ リアカメラや台座などは、定期的に点検してください。
角度調整ねじが緩んでいないこと、貼り付けた部分が剥がれていないことを確認してください。角度調整ねじの緩みがある場合は、増し締めをしてください。リアカメラが外れて落下し、適切に記録できない原因となります。
- ⚠️ 車体のねじ部分、シートレール等の可動部にコード類をはさみ込まないように配線してください。
断線やショートにより、事故や感電、火災の原因となる場合があります。
- ❗ 取付説明書で指定された通りに接続してください。
正規の接続を行わないと、火災や事故の原因となる場合があります。
- 🚫 エアバッグの動作を妨げる場所には、絶対に本機の取り付けと配線をしてしないでください。
車両メーカーに作業上の注意事項を確認してから作業を行ってください。エアバッグ動作を妨げる場所に取り付け・配線すると誤作動を起こしたり、交通事故の際、エアバッグシステムが正常に動作しないため、怪我の原因となります。
- ⚠️ 車体のねじ部分、シートレール等の可動部にコード類をはさみ込まないように配線してください。
断線やショートにより、事故や感電、火災の原因となる場合があります。

⚠️ 注意

- ❗ 本機の取り付け・配線には、専門技術と経験が必要です。
安全のため必ず株式会社デンソーテン「お客様相談窓口」へ相談してください。誤った取り付けや配線をした場合、車に重大な支障をきたす場合があります。
- 🚫 しっかりと固定できないところや振動の多いところへの取り付けは避けてください。
両面テープで取り付ける場合は、取り付け場所の汚れやワックスを綺麗に拭き取ってください。きれいに拭き取らないと、走行時の振動が機器を外れて運転の妨げとなり交通事故や怪我の原因となる場合があります。
- ❗ 本機は、車幅からはみ出さない場所、または、車の前後からはみ出さない場所を選んで取り付けてください。
歩行者などに接触して思わぬ事故の原因となる場合があります。
- ❗ コードが金属部に触れないように配線してください。
金属部に接触しコードが破損して火災、感電の原因となる場合があります。
- ❗ コードの配線は、高温部を避けて行ってください。
コード類が車体の高温部に接触すると被覆が溶けてショートし、火災、感電の原因となります。
- ❗ 本機の取付場所変更時は安全のため必ず株式会社デンソーテン「お客様相談窓口」へ相談してください。
取り外し、取り付けには専門技術が必要です。
- 🚫 コード類を決して途中で切断しないでください。
コード類には、ヒューズなどが付いている場合がありますので、保護回路が働かなくなり、火災の原因となる場合があります。
- 🚫 電源用リード線をバッテリーに直接接続しないでください。
車の振動や熱でコードの被覆が破れ、ショートして火災や感電の原因となる場合があります。

リアカメラ取り付け後の注意事項

⚠️ 警告

- 🚫 機器内部に水や異物を入れないでください。
発煙や発火、感電の原因となります。
- 🚫 画面が出ないなどの故障状態で使用しないでください。
そのまま使用すると、事故、火災、感電の原因となります。
- ❗ 万一、異物が入った、水がかかった、煙りが出る、変な匂いがするなどの異常が起きた場合は、直ちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店に相談してください。
そのまま使用すると事故、火災、感電の原因となります。
- 🚫 ビニール 袋をかぶらないでください。
大きな事故や窒息死の原因となります。

⚠️ 注意

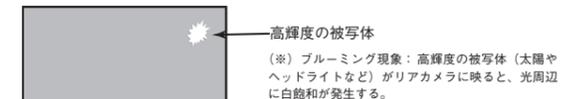
- 🚫 リアカメラを水に浸したりしないでください。
リアカメラ内部に水が入ったり、また、リアカメラが脱落したりして、思わぬ事故の原因となります。
- 🚫 本機を車載用として以外は使用しないでください。
発煙や発火、感電や怪我の原因となります。
- ⚠️ リアカメラの映像はルームミラーやサイドミラーで見ると同じ左右反転させた映像です。
車種により見え方が異なります。十分にご注意ください。
- ❗ 万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 🚫 リアカメラ本体及びレンズ部分、台座、リアカメラコードをアルコール、ベンジン、シンナー、ガソリン等揮発性の薬品類で拭かないでください。
変形や変質、破損の原因となります。
- 🚫 リアカメラ部を強くたたいたり、物をぶつけるなどの強い衝撃を与えないでください。
リアカメラの故障や破損の原因となります。

一使用方法について

- 水滴などがレンズ部に付着すると、映りが悪くなる恐れがあります。
- カメラレンズの特性により、画像に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。

一取扱いについて

- カメラレンズへの直火やドライヤー、熱湯での急激な温度変化を与えると、故障や破損の原因となります。
- 太陽光を直接長時間撮像しないでください。焼き付け現象が残ることがあります。
- 車両後方画像を表示させた瞬間は、一旦白画像 (接続する機種により異なります) になりますが、その後次第に安定します。
- 長時間使用した場合、温度上昇により白キズや縦線が出ますが、カメラ素子の特性によるものです。
- 50Hz 電源地域の蛍光灯下では、画像のちらつき (フリッカー現象) が起こりますが故障ではありません。
- 磨き砂等が配合された洗剤で拭かないでください。キズの原因となります。
- レンズ部分が汚れている場合は、水を含ませた柔らかい布などで軽く拭いてください。乾いた布で強くこするとキズの原因となります。
- リアカメラは、定期的に点検してください。角度調整ねじの緩みや貼り付けた部分が剥がれていないことを確認してください。角度調整ねじの緩みがある場合は、増し締めをしてください。
- 太陽光やヘッドライトなどの高輝度の被写体がリアカメラに映ると、映像素子特有のブルーミング現象 (※) が発生したり、その光源中心部分が黒く映ることがありますが、リアカメラの異常ではありません。



●リアカメラの取り付けについて

☑️ アドバイス

—取り付け前—

- 湿気が多い時は、室外での取り付けはしないでください。(粘着力が弱くなり、走行中にはがれる危険性があります)
- 必ず組み合わせる機器の取付説明書もよくお確かめの上、取り付けてください。

—取り付け作業時—

- 取り付け後、走行してもさしつかえありませんが、引っ張る等無理な力を加えないで自然放置してください。
- 気温が低い(20℃以下)と両面テープの粘着力が弱まります。ドライバー等を使用し、粘着面を暖めてから貼り付けてください。リアカメラ本体やレンズ部分には、ドライバー等を使用しないでください。

1 カメラレンズの青い保護フィルムをはがす。

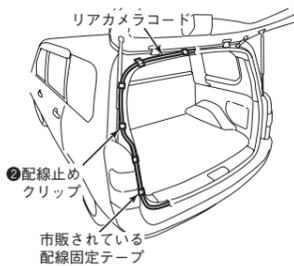


4 リアカメラコードを配線する。

- ① リアカメラコードを配線止めクリップおよび市販されている配線固定テープで固定しながら配線する。



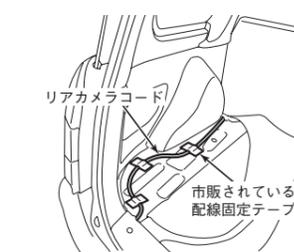
注意 雨水等の侵入を防ぐためトランク部分のリアカメラコードの引き回しには十分注意してください。



- ② リアカメラコードを端末まで配線する。

☑️ アドバイス

- 配線する際は、リアカメラコードのかみ込みや断線に注意してください。
- 実際の配線は車両ごとに条件が異なるため、取り付け業者にご相談ください。

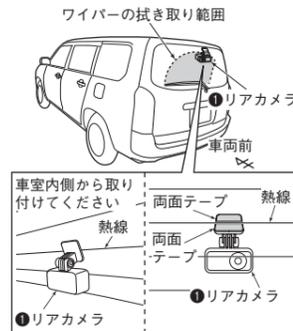


2 リアカメラの取付位置を決める。

☑️ アドバイス

リアカメラの取付位置を決める際、以下の事項に注意してください。

- リアカメラをテープ等で仮止めし、角度を調節して、車両後端が確認できる位置に取り付けてください。一度取り付けて貼り直すと両面テープの粘着力が弱くなります。
- リアカメラは、ハイマウントストップランプなどの光がカメラレンズに入らない位置に取り付けてください。
- バックドア開閉時にリアカメラ及びリアカメラコードが車両と干渉しないようにあらかじめ取付位置を確認してください。
- リアワイパーが装着されている場合、ワイパーの拭き取り範囲内に取り付けてください。ガラスの汚れ、雨天時の水滴等により、映像が見づらくなる恐れがあります。
- 熱線に両面テープが重ならないように貼り付けてください。
- 両面テープのはくり紙は、まだはがさないでください。



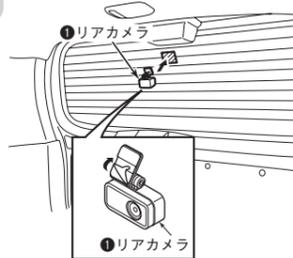
3 リアカメラを貼り付ける。

- ① リアカメラを貼り付ける部分の汚れ、水分、油分等を付属のアルコールパッドできれいにふき取る。



注意 この作業が不十分だった場合、両面テープのはがれが発生する可能性があります。

- ② リアカメラの両面テープのはくり紙をはがし、車室内リアガラスの平らな面へ取り付ける。



●リアカメラの角度調整について



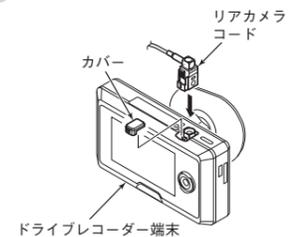
注意 リアカメラを映し出す際は、車が動かないようサイドブレーキを引き、車輪止めを必ず行ってください。思わぬ事故の原因となります。

1 リアカメラをドライブレコーダー端末に接続する。

- ① 端末のシガーライター電源ケーブルのシガープラグをお車のシガーソケットまたは、アクセサリソケットから取り外す。
- ② リアカメラコードを端末に接続する。
- ③ 端末のシガーライター電源ケーブルのシガープラグを車両のシガーソケットまたは、アクセサリソケットに接続し、車両のエンジンをかける。

☑️ アドバイス

- 端末が装着され、チュートリアル設定が完了していることをご確認ください。



2 ドライブレコーダー端末でカメラ設定を変更する。

- ① 【メニュー】→【各種設定】を選択する。



※実際の表示が異なる場合がございます。

- ② 【ドライブレコーダー設定】→【録画共通設定】→【カメラ選択】→【前方カメラ+リアカメラ】を選択する。



※実際の表示が異なる場合がございます。

- ③ 【はい】を選択し設定を完了させる。

☑️ アドバイス

- 【はい】を選択すると、端末が再起動します。カメラ設定を完了するには、端末の再起動が必要です。
- リアカメラを使用すると、端末の車内カメラが使用できなくなります。
- リアカメラが認識できない場合、端末にカメラ警告表示されます。
- 再起動時、ドライブレコーダー端末がチュートリアル設定時の取付角度から変更がある場合、端末の角度設定画面に移行します。

●リアカメラを取り外す(交換)方法について

1 ドライブレコーダー端末でカメラ設定を変更する。

- ① 【メニュー】→【各種設定】を選択する。



※実際の表示が異なる場合がございます。

- ② 【ドライブレコーダー設定】→【録画共通設定】→【カメラ選択】→【前方カメラ+車内カメラ】または、【前方カメラのみ】を選択する。



※実際の表示が異なる場合がございます。

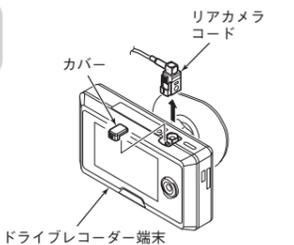
- ③ 【はい】を選択し設定を完了させる。

☑️ アドバイス

- 【はい】を選択すると、端末が再起動します。カメラ設定を完了するには、端末の再起動が必要です。
- 再起動時、ドライブレコーダー端末がチュートリアル設定時の取付角度から変更がある場合、端末の角度設定画面に移行します。

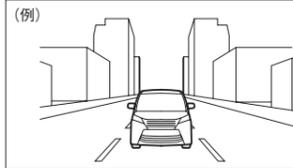
2 リアカメラをドライブレコーダー端末から取り外す。

- ① 端末のシガーライター電源ケーブルのシガープラグをお車のシガーソケットまたは、アクセサリソケットから取り外し、端末がスリープ状態になっていることを確認する。
- ② リアカメラコードを端末から取り外す。



3 リアカメラの角度調整をする。

- ① カメラ設定変更後、初回起動時の端末に表示されるプレビュー画面にてリアカメラの映像を確認する。
- ② 角度調整ねじを緩め、リアカメラの角度を調整する。



☑️ アドバイス

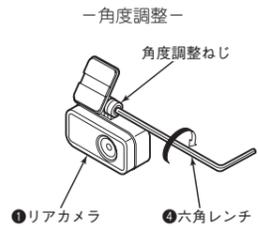
- 同一レーンを走っている、後方車両の前面全体が確認できるようにカメラ角度を調整してください。

4 リアカメラコードを配線する。

- ① 角度調整後、角度調整ねじをしっかり締め付ける。

☑️ アドバイス

- リアカメラの角度調整の際、リアカメラコードが突っ張らないように注意してください。
- 角度調整ねじは時々点検し、緩みがある場合は増し締めをしてください。



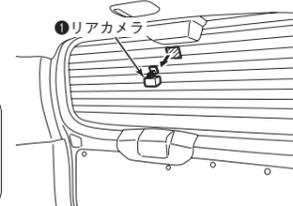
- ② 【次へ】を選択し設定を完了させる。

3 リアカメラをリアガラスから取り外す。

- ① リアカメラをリアガラスから取り外す。
- ② リアカメラコードを車両から取り外す。

☑️ アドバイス

- リアカメラをリアガラスから取り外す際、強い力が必要になります。事故やケガの原因にならないよう注意して作業を行ってください。



<リアカメラの取り付けに関するご相談窓口>

株式会社デンソーテン「お客様相談窓口」

通話料 0120-022210
無料 携帯電話・PHSからもご利用になれます。

受付時間 午前9:30～午後5:30(土・日・祝日・弊社休業日除く)